

## 緑区片平学区

# 災害時避難行動マップ

～他人事から自分事、そしてみんな事へ～

この避難行動マップは、大規模な地震や風水害が発生した場合を想定し、片平学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したもので。避難行動マップをもとに、「いざ」という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

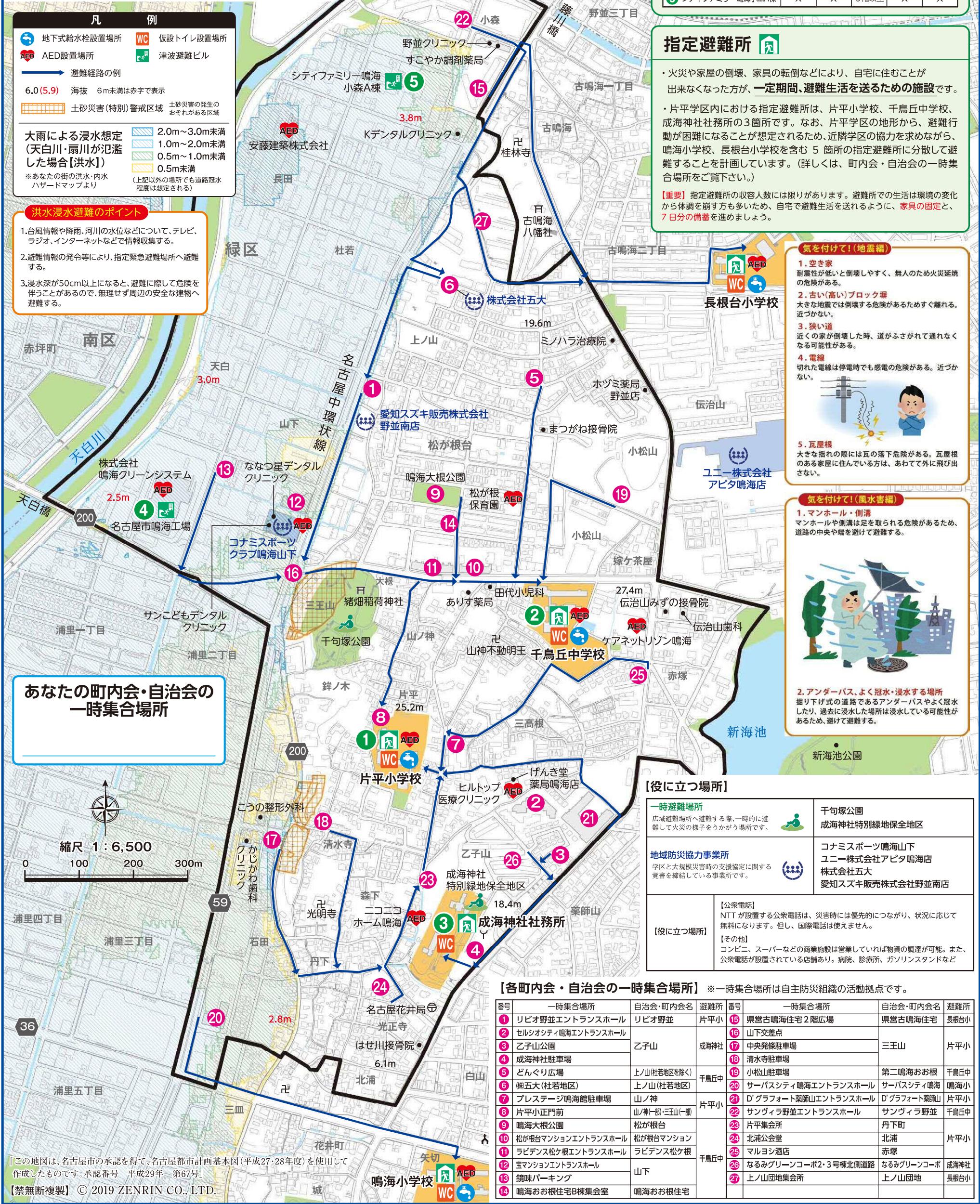


### 凡 例

	地下式給水栓設置場所		仮設トイレ設置場所
	AED設置場所		津波避難ビル
→	避難経路の例		
6.0(5.9)	海拔 6m未満は赤字で表示		
	土砂災害(特別)警戒区域	土砂災害の発生のおそれがある区域	
大雨による浸水想定 (天白川・扇川が氾濫した場合【洪水】)		2.0m~3.0m未満 1.0m~2.0m未満 0.5m~1.0m未満 0.5m未満	
※あなたの街の洪水・内水ハザードマップより		(上記以外の場所でも道路冠水程度は想定される)	

### 洪水浸水避難のポイント

- 台風情報や降雨、河川の水位などについて、テレビ、ラジオ、インターネットなどで情報収集する。
- 避難情報の発令等により、指定緊急避難場所へ避難する。
- 浸水深が50cm以上になると、避難に際して危険を伴うことがあるので、無理せず周辺の安全な建物へ避難する。



# 緑区 片平学区

世帯：4,512 世帯 人口：10,653 人 面積：1,427k m<sup>2</sup>

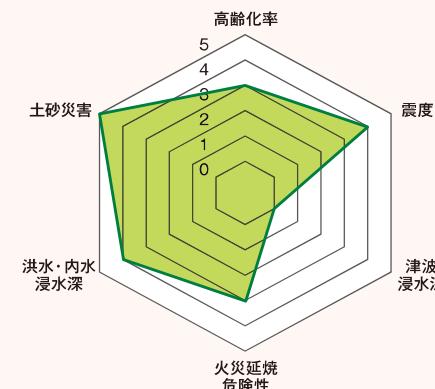
(平成 31 年 2 月 1 日現在の世帯数と人口より)

## 特性と災害リスク

南海トラフ巨大地震（あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震の場合）が発生した場合、名古屋中環状線を挟み、以東で震度6弱、天白川沿いの地域を含む以西では震度6強が想定されており、震度が大きい地域では液状化の危険性も高くなっています。まずは、身を守りましょう。この時に怪我をしないよう、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。また、天白川・扇川沿いの地域では、河川氾濫による浸水も想定されています。河川の水位など、普段から情報収集できるよう確認しておくとともに、避難情報の発令等があった場合などに、速やかに行動できる準備をしておきましょう。

## リスクレーダーチャート([STEP1: 地域特性の把握])

	値	5段階
高齢化率	24.3%	3
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	500~1,000棟未満	3
洪水・内水浸水深	2.0m~3.0m未満	4
土砂災害	警戒区域に人家100件以上	5

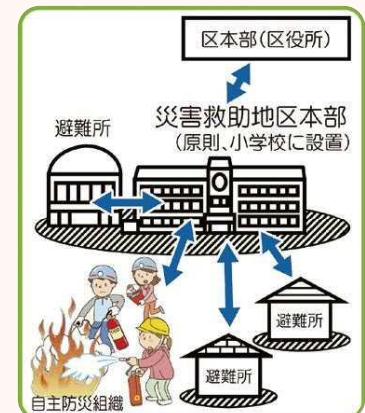


お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック塀など）及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用下さい。  
名古屋市 地区防災カルテ 検索

## 一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

- ◆まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。（安否確認、声かけなど）
- ◆災害の恐がなくなった後も、避難生活は続きます。自宅（在宅避難）が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。
- ◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部（区役所）に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。



## 学区の取り決め、行動計画、心得など (ご協力ください)

- ◆新たに指定避難所に指定された成海神社の運営方法について検討を進めます。
- ◆学区の北西部と南東部地域で異なる災害リスクに対応するため、自主防災組織などの小規模な単位による防災訓練に取り組みます。
- ◆「他人事から自分事、そしてみんな事へ」を合言葉に片平学区ならではの地域コミュニティを防災・減災対策に生かします。

## 在宅避難のススメ

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

- ・在宅避難している高齢者や障害者などに声を掛けよう！
- ・周囲に自宅避難を知らせよう！
- ・周囲で声かけし、食料や物資を分け合おう！
- ・最寄りの避難所で避難者登録しよう！

## 地震時の行動（津波浸水想定区域外）

揺れた!!

揺が  
おさまった!!

災害の危険解消  
避難先へ

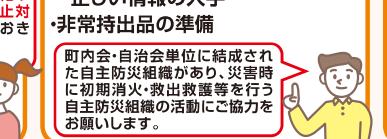
自宅での滞在が可能か  
○ 在宅避難

- 身の安全の確保  
・頭を守り揺がれがおさまるまで待つ  
・安全に消せる場合は火を消す  
・家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意



提供:効果的な防災訓練と防災啓発講演会

- ・火の元の確認、出火したら初期消火  
・怪我をしないように底の厚い靴やスリッパを履き、出入口の確保  
・家族の安否・家の被害状況の確認  
・テレビ・ラジオ・スマートフォンなどから正しい情報の入手  
・非常持出品の準備



町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火・救出救援等を行う自主防災組織の活動にご協力をお願いします。

- ◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を!  
避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。



在宅避難している高齢者や障害者などへの声掛け

緊急避難が必要な場合は、避難!

●原則、歩きで避難

●高齢者や障害者などの避難誘導を

●原則、歩きで避難

## 風水害時の行動

3日前

台風が発生した  
情報収集

- ・テレビ・ラジオ・スマートフォンなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報を入手

2日前

台風や大雨が来るぞ!!  
準備

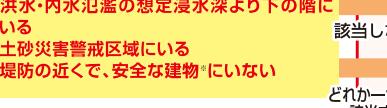
- ・避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や浸水想定区域等の確認
- ・家族との連絡方法の確認
- ・家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け



1日前

雨足が強くなってきた!!  
避難の判断

- ・情報収集を続けて、避難開始時期を判断
- ・50cm以上の浸水時は避難に危険が伴うため注意
- ・自動的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する



自宅などにとどまる  
避難情報の発令等により避難行動!!

避難開始

- ・ただちに避難!（垂直避難）
- ・指定緊急避難場所までの道が危険な場合は、身近な建物のできるだけ上の階へ
- ・屋外での避難が危険だと感じたら、自宅の上階へ

避難勧告

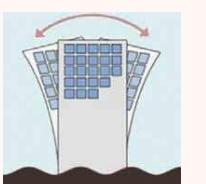
・被害が発生するおそれがあるため、避難をすすめるために発令するもの

避難指示（緊急）

・被害の危険が目前に迫り、生命の危険がより高まったため、避難を強くすすめるために発令するもの

## マンションでの防災・減災

マンションは耐震性・耐火性のほか、保安面で優れていますが、大規模災害時には、長周期地震動による揺れ、火災延焼、エレベーター停止、断水等によるトイレの使用制限、住民の室内の様子が分かりにくい等マンション特有の懸念もあります。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。



- 高層建築物は、長周期地震動と共に振して長時間、大きく揺れる。
- (家具の転倒防止。できない場合でも部屋に「ここだけは安全!」という場所をつくる)



- 配水管が安全確認ができるまでできるだけ水を使わない。(下階における汚水の逆流防止。簡易トイレ(便袋)などを活用)



- 地域コミュニティとの良好な関係
- (日頃の挨拶・声掛け。熊本地震では地域と良好な関係を築いていたマンションに、地域の働きかけで支援物資が届いた事例がある)

## 一人では逃げられない方への対応

### 過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」

が、下記のような高齢者や障がいのある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

### 情報の入手や判断が難しい方

- 見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など。
- やさしい言葉でゆっくり声かけ
- メモや身振りで伝える

### 移動が難しい方

- 杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど。
- 複数で手伝う
- 身近にあるものを利用する